

# 地域福祉に関するアンケート結果の概要

## 1 調査の目的

この調査は、『第3次潮来市地域福祉計画・地域福祉活動計画』の策定に向け、地域のつながりやボランティア活動への参加意向、地域福祉活動に対する理解等を把握し、だれもが住み慣れた地域で安心・安全に住み続けられる福祉のまちづくりを推進するための基礎資料とするものである。

## 2 調査対象者と回収結果

本調査は、以下の調査を実施した。

種類	調査対象者	調査方法	有効回答数	前回 (R2) 有効回答数
① 一般市民アンケート	18歳以上の市民 2,000人を無作為抽出	郵送又はインターネットによる併用	787人 (39.4%)	940人 (47.0%)
② 地域役員アンケート	民生委員児童委員、主任 児童委員 73人	郵送又はインターネットによる併用	59人 (80.8%)	62人 (87.3%)
	区長 67人	郵送又はインターネットによる併用	50人 (74.6%)	57人 (86.4%)
③ ボランティアアンケート	ボランティアセンター 25団体	郵送又はインターネットによる併用	18団体 (72.0%)	33件 (78.6%)
④ 中学生・高校生等アンケート (潮来高校在校生市外含む)	市内中学生 579人	インターネットによる回答	357人 (61.7%)	210人 (中学2年生)
	高校生世代 926人	インターネットによる回答	383人 (41.4%)	362人 (潮来高校生)

【調査期間】令和5年7月24日(月)から8月4日(金)まで(締切日にお礼状兼督促を発送) データの入力最終〆切は9月6日(水)

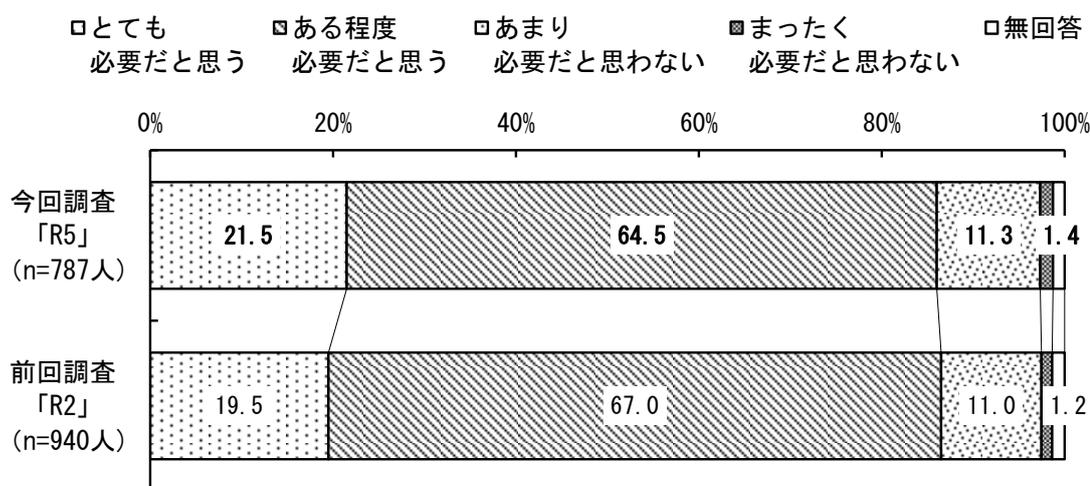
### 3 調査結果の概要

#### (1) 地域とのつながりの必要性について

ご近所の支え合いは必要と思うが、地域共生社会への理解はまだ不十分。

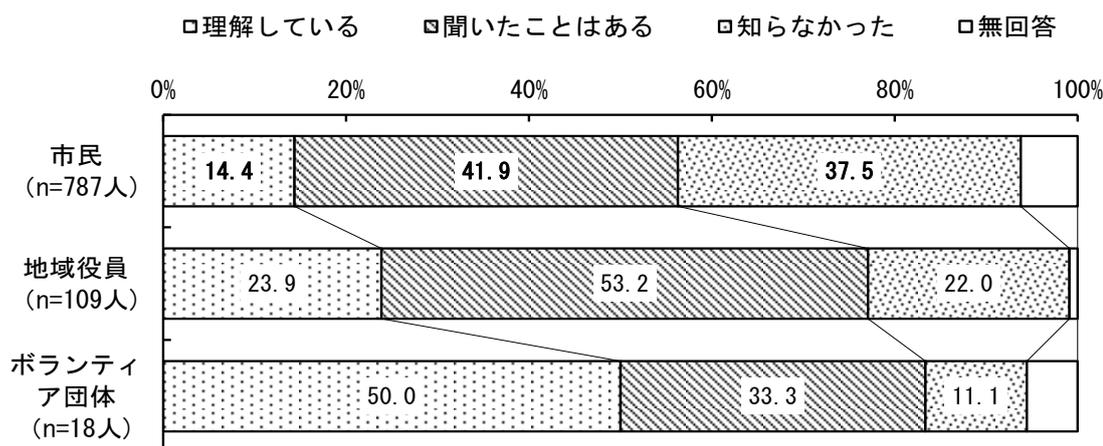
ご近所の支え合いの必要性は感じられているが、深い付き合いまでは求めている。若い世代が地域とのつながりを持っていくことで『地域共生社会』の理解も進んでいく。

図 ご近所による支え合いの必要性（市民：問7）



注) 無回答値は省略

図 「地域共生社会」の言葉の認知度（市民：問9、役員：問7、ボラ：問5）



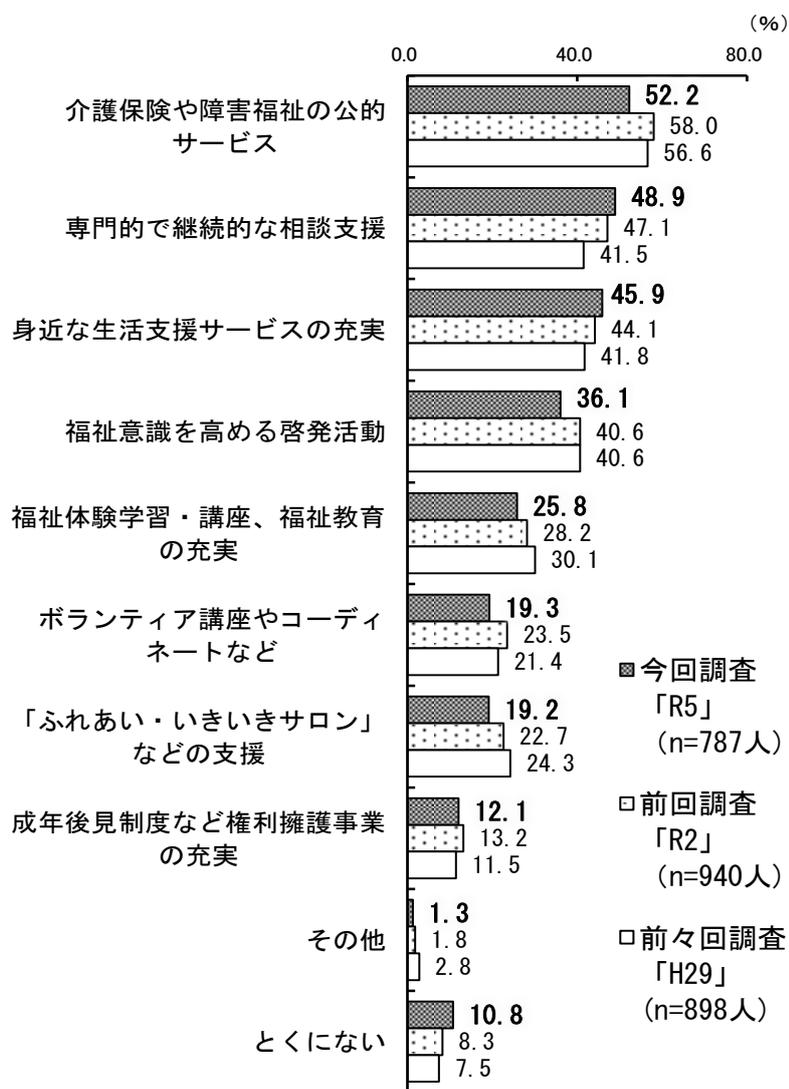
注) 無回答値は省略

## (2) 社会福祉協議会の期待について

「専門的で継続的な相談」や「身近な生活支援サービス」が増えてきた。

公的なサービスの提供から、より身近で、より広い市民を対象とする「相談支援」や「生活支援」、地域役員等からは「関係機関とのネットワーク強化」が期待されている。

図 『社会福祉協議会』への期待（市民：問21）



注) 無回答値は省略

### (3) 福祉に対する理解促進について

「行政と市民の協力」は一定程度浸透。地域役員の活動を市民に知ってもらうこと。

福祉を推進するために「市民と行政が協力しながら」が一定程度浸透しているが引き続き、福祉課題を市民と共有する啓発が必要。大半の区長や民生委員・児童委員は負担感を感じながら活動しているが市民に知られておらず、理解が深まっていない。

図 『福祉』の考え方 (市民：問22)

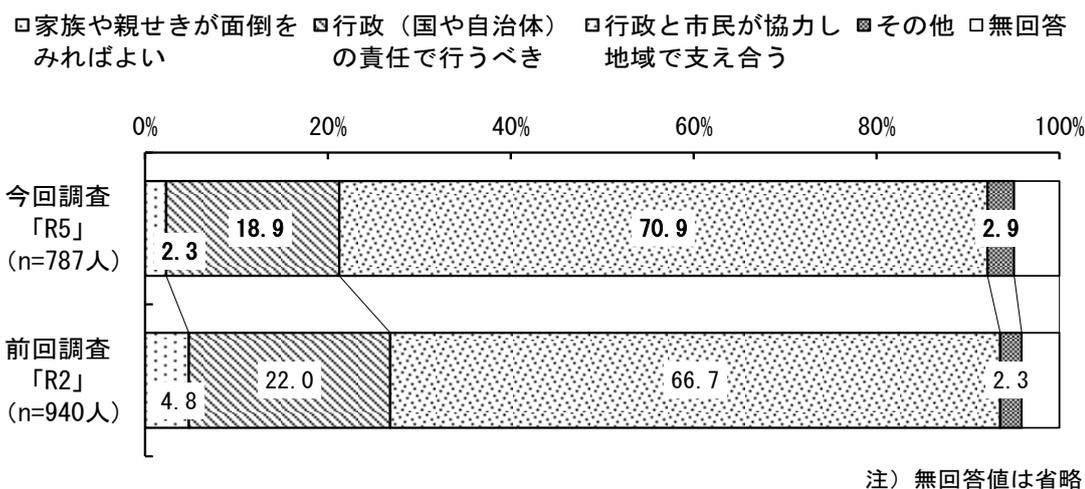
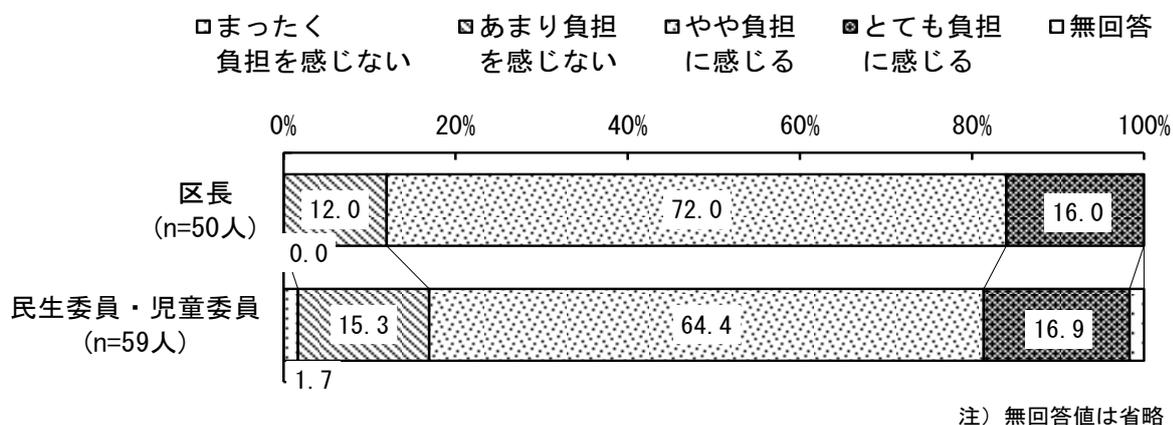


図 地域役員の活動の負担感 (役員：問5)



#### (4) 中学生・高校生等について

中学生・高校生等の福祉の仕事への関心は薄い。ヤングケアラーと思われる生徒が1割程度。

将来、福祉関係の仕事の希望が、中学生・高校生等とも1割程度しかない。家族のお世話を必要としている生徒（ヤングケアラー）が1割程度いる。

図 福祉関係の仕事の意向 (中高：問8)

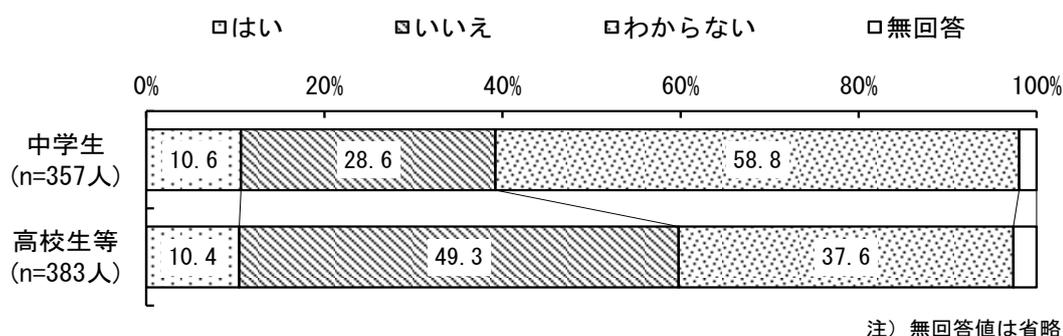


図 生徒が家族をお世話をしている状況 (中高：問7)

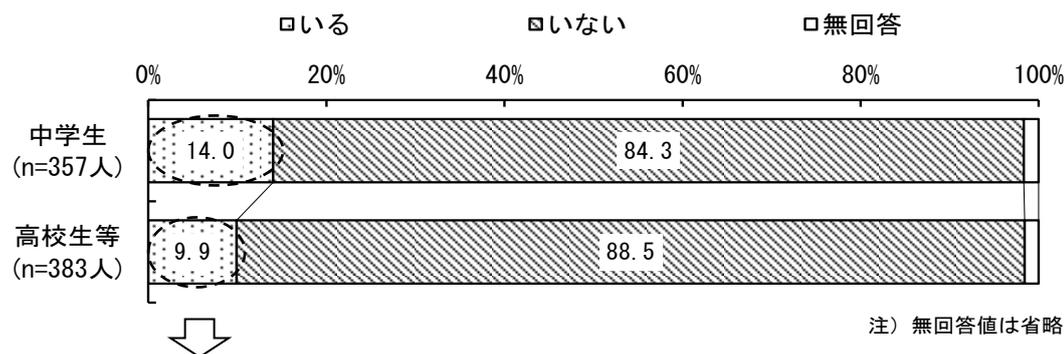


図 お世話をする頻度

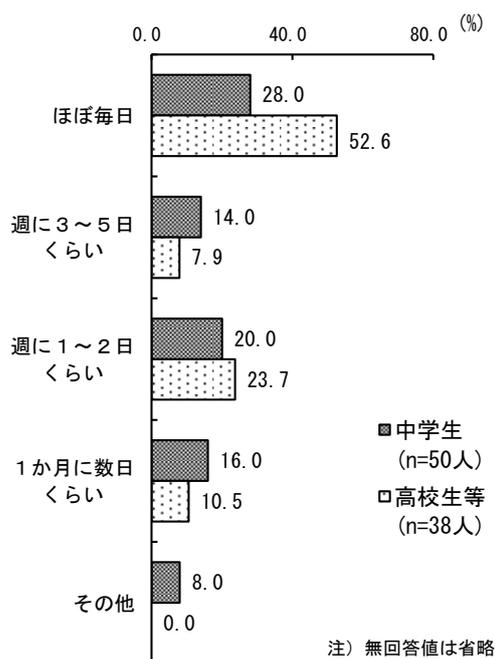
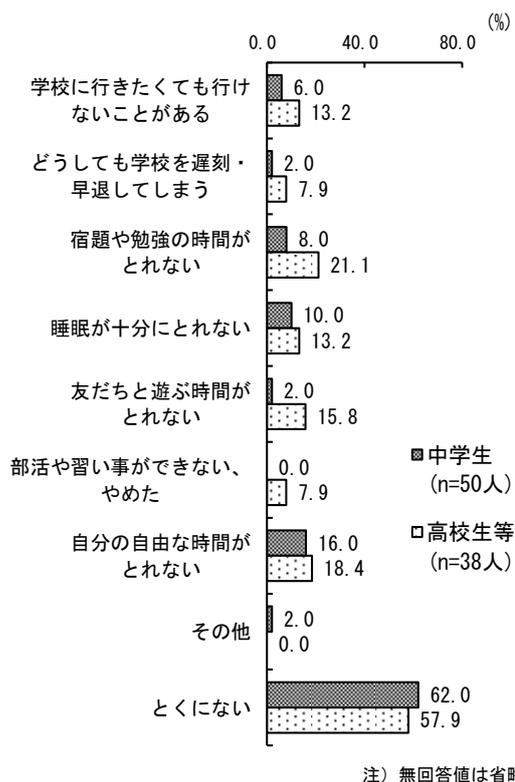


図 お世話をすることで難しくなること



## (5) 相談支援体制の強化について

福祉の相談窓口があることで「安心感」があると評価されている。

高齢者、障がい者、児童、生活困窮者等の相談窓口が充実してきた中で、まだ相談につながないケースもうかがえるため、つないで支えていく相談機能の充実が求められる。

図 福祉の相談窓口がある安心感（市民：問13）

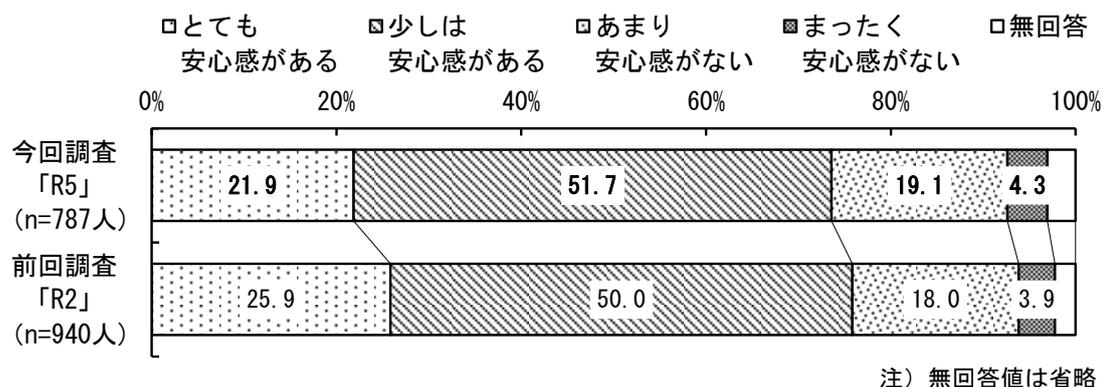
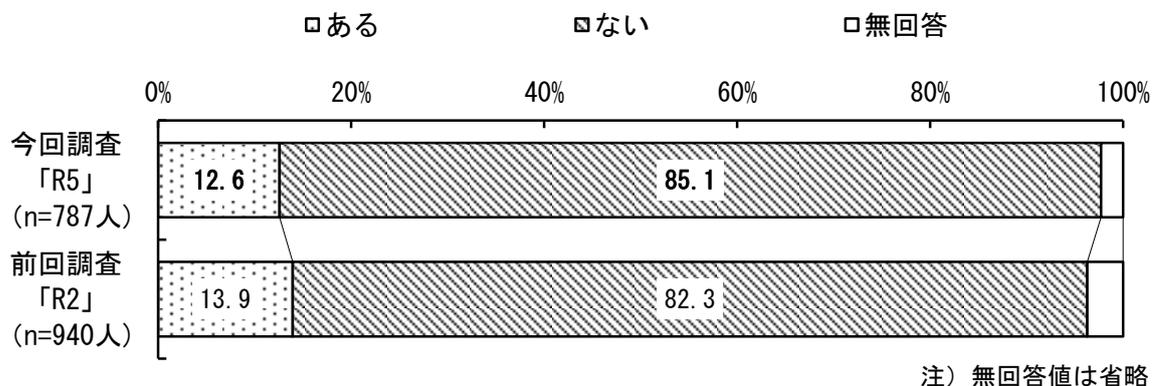


図 友人・知人の相談をつないだ経験（市民：問12）



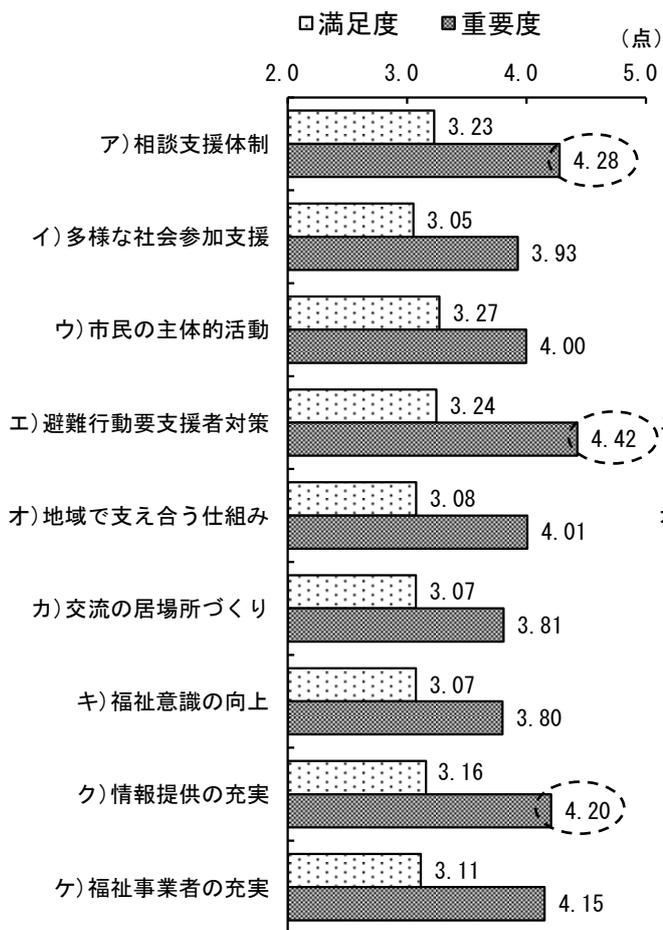
## (6) 地域福祉の取り組みの重点について

地域福祉の重点は「避難行動要支援者対策」「相談支援体制」「情報提供の充実」。

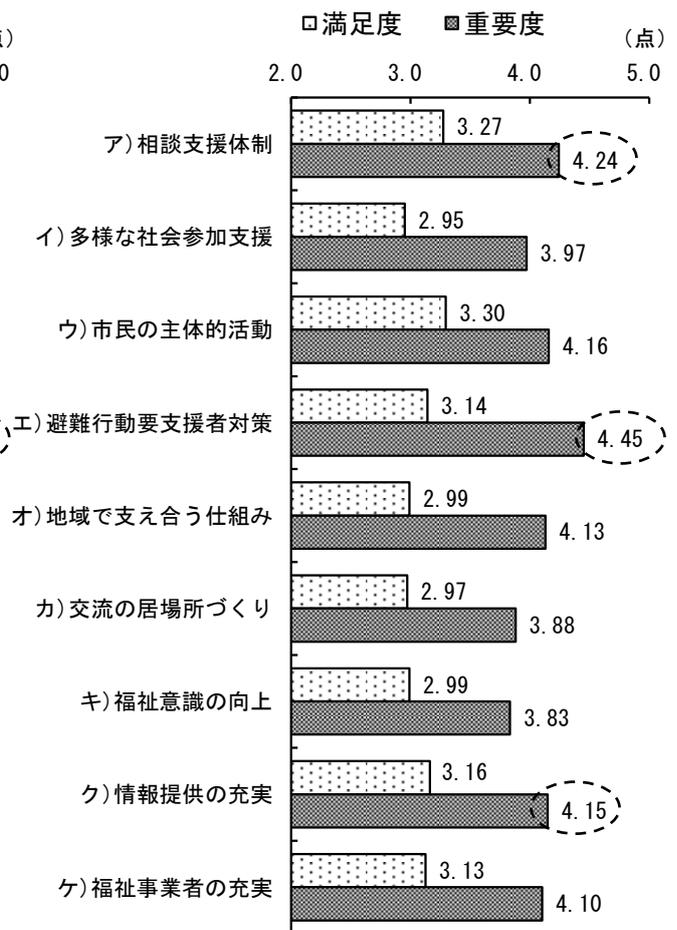
地域福祉を推進する上で大事なこととして「避難行動要支援者対策」と「相談支援体制」「制度や福祉サービスの情報提供の充実」が期待される。

図 福祉施策の満足度と重要度（問 26、問 27）

### (1) 市民



### (2) 地域役員

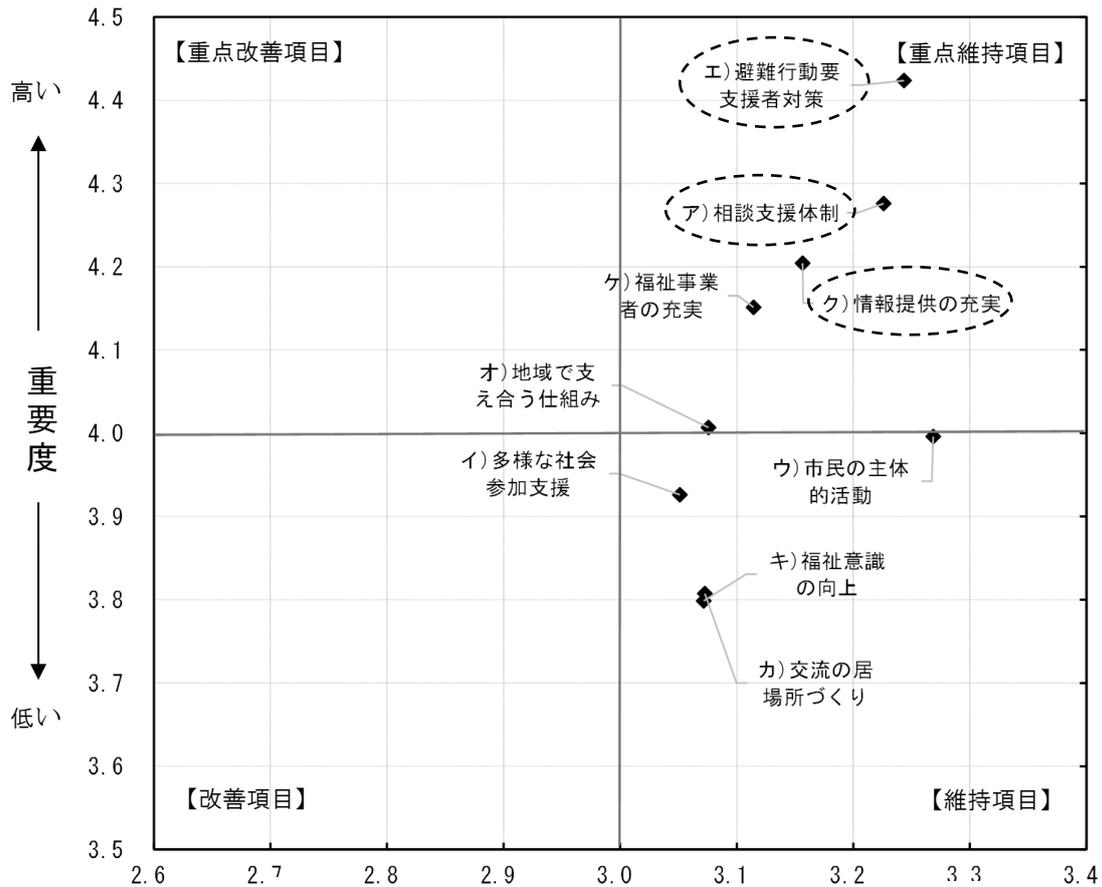


<加重平均値の算出方法>

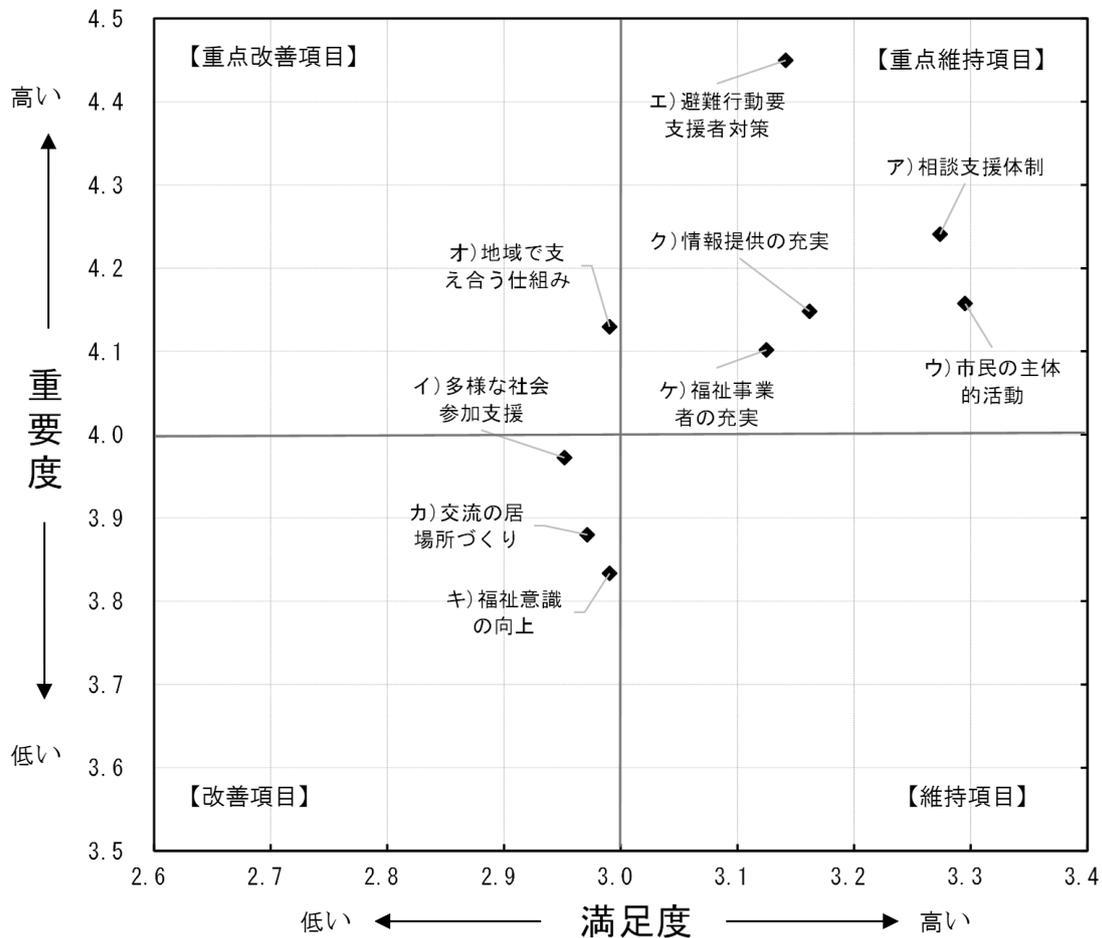
各設問に対し「評価する（重要）」から「評価しない（重要でない）」までの回答を加重平均値によって算出し点数化した。選択肢で「評価する」に+5点、「どちらかといえば評価する」に+4点、「どちらともいえない」に+3点、「どちらかといえば評価しない」に+2点、「評価しない」に+1点を便宜的に与え、回答構成から数値を求めるものである。

$$\text{点} = \frac{[\text{評価}] \times 5 + [\text{どちらかといえば評価する}] \times 4 + [\text{どちらとも}] \times 3 + [\text{どちらかといえば評価しない}] \times 2 + [\text{評価しない}] \times 1}{\text{回答者総数} - \text{「無回答」}}$$

(1) 市民



(2) 地域役員



## 《自由記入の概要》

### 【地域福祉活動について】

高齢化が進行している実感から、地域とのつながりや地域福祉活動の必要性は理解しているが、具体的に何をすることが大切なのか、地域福祉活動の理解を進める声が聞かれる。

- ◇地域の中で、もっと気軽にみんなが交流できる場所があれば良いと思います。(30～39歳)
- ◇地域、住民、市役所が協力して少しでも潮来に住んでよかったと思えるような福祉の充実ができればいいなと思っています。(50～59歳)
- ◇社会福祉や地域貢献活動について考える機会も無く過ごして来ました。今回少しでも知る事が出来た事は多少の進歩です。(60～69歳)

### 【福祉の理解について】

いざ必要になった時に、どこにどのような相談して情報を得られるかなど、福祉制度の情報の広報やPRを進めて欲しいとの意見が聞かれる。

- ◇いざという時、どこに声をあげたらいいのか全くわからない。(30～39歳)
- ◇市民に活動内容が伝わるよう広報などに掲載していただきたい。(50～59歳)
- ◇自分があまり福祉に対して、携わっていないためよくわかりません。でも自分なりに考えてみたいと思いました。(60～69歳)
- ◇福祉に関して困った事や相談等の具体例と解決策を細やかに教えて頂きたい。(70～79歳)

### 【児童福祉・子育て支援について】

若者や次世代を担う子どもたちへの支援に力を入れて欲しいとの声が聞かれる。

- ◇全国的にみても思うが若者の出会いがなく、場所がない。そのせいで出生率は下がり続けている。(18～29歳)
- ◇子供達が楽しめるような行事や体験があってもいいと思う。(30～39歳)
- ◇ひとり親世帯で子供が経済的に困っていること、教育も恵まれないこと。(70～79歳)

### 【高齢者福祉について】

一人暮らし高齢者に対する支援や、移動手段の確保に関する意見が多い。

- ◇オムツ券支給について、民生委員の印鑑が必要なのか。デリケートなことで当人の事も考慮していただきたい。(60～69歳)
- ◇困っているのは高齢者になって運転できない時、交通機関がないので近くにタクシー会社や市営バスがほしい。(70～79歳)
- ◇一人住まいの方の安否の声かけなどをしてくれたら安心して生活できます。(80歳以上)

### 【障がい福祉について】

見た目ではわからない障がい者への理解を求める意見がある。

- ◇見てわかる障害者への支援はもちろん必要ですが、見てわからない障害者(精神的な)への支援がもっとわかりやすくしていただきたい。(40～49歳)

### 【保健・医療について】

加齢とともに病気や健康への不安が高まり、往診してくれる医療機関や病院等があれば安心との声が聞かれる。

- ◇医療体制の構築（優先課題）。医療体制の充実、総合病院誘致が毎回言われるが具体的に何も変わっていない。（70～79歳）
- ◇高齢者、乳幼児などに往診してくれる病院の先生がいてくれると助かると思います。（80歳以上）

### 【社会福祉協議会について】

社会福祉協議会の活動内容が知られておらず、周知が必要との声が聞かれる。

- ◇社会福祉協議会の運営で「住民の会費等によって運営されている」ことを私は知りませんでした。（60～69歳）
- ◇自分に関わりがなければ全く社協の存在や役割等を知りませんでした。（60～69歳）
- ◇社会福祉協議会が他ボランティア活動と協力する行動力に期待したい。（70～79歳）
- ◇もっと「社協」について、市民に広報していく必要があると思う。（70～79歳）

### 【まちづくり全般について】

人口減少の中で、次世代につながる、だれもが安心して暮らせるまちづくりを進めて欲しい。空き地やごみ問題、道路の街灯、公園の整備、移動手段など生活課題の改善を望む声も多い。

- ◇空き家が多い。崩れそうなところも多々見受けられる。通学路にもそういった建物がある。（30～39歳）
- ◇財政の負担になるが、福祉、介護、教育は今後とも非常に重要課題である。（40～49歳）
- ◇生活が困難な方は非課税世帯以外にも多々あります。非課税世帯、ひとり親世帯以外にも給付金の支給があれば助かると思う。（40～49歳）
- ◇来た人の相談に乗るのは当たり前。市から家庭に直接働きかけられなければ問題は見えてこないのでは？（50～59歳）
- ◇相談する時は急ぎで困っている時だから、すぐ対応してほしい。（70～79歳）

### 【区長の回答】

- ◇やるが多すぎます。また、仕事を持っている人に区長職はとてもできない。
- ◇新しい手法や効率化、簡略化をしようとする姿勢が見られない。
- ◇地域住民の交流の場がほしいと思います。
- ◇巣立っていく子供達が、またふるさとへ戻ってきてくれるような環境づくりが課題。

### 【民生委員の回答】

- ◇区長及び民生委員は日頃頑張っているが、住民に理解されていないと思う。
- ◇情報が縦割りになっており共有化されていない。
- ◇児童委員活動を行う上で情報の共有が必要不可欠だと思います。
- ◇ひとり暮らし高齢者への支援、緊急時のネットワークが無い。安否確認ができない。

等々